



第50回松輝祭 開催

9月22日(木)と23日(金)に、第50回松輝祭が開催されました。2日間とも曇りか雨の天候で、9月としては少々肌寒く、1日目午後には予定していたミニ運動会は、10月4日(火)に実施しました。

今年度は、生徒全員がアリーナに入場し、開閉祭式、外国語スピーチや文化部の発表、合唱発表会を直接見ることができました。



開祭式前日の全校集会で

松輝祭本番の前日の9月21日(水)、松輝祭に向けた全校集会を行いました。この時に、生徒会執行部から全校生徒に、全校が集まって開催する際の注意点と、協力をお願いを呼びかけていました。また、今年度は、第50回ということで、「なぜ、一中文化祭が『文化発表会』から『松輝祭』という名称になったのか」の発表がありました。名称変更にかかわっていた当時の生徒会担当の先生や、ちょうどその時に一中生徒だった本校職員の、それぞれのインタビューの様子を動画で視聴し、「松輝祭」の名称について、全校で知ることができました。



多様性を学ぶ「外国語スピーチ」

本校は、誰もが多様性を受け入れ、認められる学校を目指し、教育活動に取り組んでいます。その一環として、日本語教室に通級している生徒が、自分の母国語で、母国の学校生活や日本との違い、来日した言葉の壁などをスピーチしました。そのため、これまでの「英語スピーチ」を「外国語スピーチ」と名称を変え、日本語教室に通う生徒4名を含めた3年生6名が発表しました。

スピーチを聞いたあと、ある生徒は、「日本で当たり前なのが海外ではそうでないことに驚いた。知らないことばかりでおもしろかった」と感想をもっていました。

発表前の練習の様子や発表本番では、上田ケーブルテレビや信濃毎日新聞社が取材に訪れ、その様子は、ニュースや新聞で取り上げられました。



最後の合唱部発表

合唱部は、この松輝祭を最後に活動が終了しました。部長さんは以前、「今までお世話になった人に感謝を込めて、気持ちを込めて歌いたい」と話していました。これまで、部活動指導員の先生にもお世話になり、練習を重ねてきました。まさに、全ての人に感謝を届けた合唱でした。



10/5～11/4 は後期人権同和学習月間です

現在、後期人権同和学習月間に入っており、主に部落差別問題を扱った同和学習を進めています。この学習月間に入るにあたり、9月末に、講師の先生をお招きしての職員研修を行いました。また、10月5日（水）には、校長による人権学習にかかわる講話を全校で聞きました。

人権同和教育の授業をどう行っていけばいいのか ～職員研修より～

上田市教育委員会丸子地域教育事務所社会教育指導員の荻原敏行先生を講師としてお迎えし、人権同和教育の基本や目的とは何かを伺いながら、人権教育の授業づくりについて職員研修しました。この研修を通して、「きれいごとではなく、自分の心に正直に葛藤もありながらも、意識を高くもって過ごしていくという姿勢を大事にしていきたい。」「人権問題について、生徒と同じように自分自身が常に自分のあり方を考えていかなければならない。」「どこか、上から目線で被害者の方に向き合おうとしていた部分もあるので、反省し、次からの授業を行っていききたい」等を考え、現在、授業を行っています。



『人ごとではなく、自分ごと』として ～校長講話より～

校長講話は、まずは、校長自身が家族に対してかけられた言葉などを振り返り、校長自身が考えたことを生徒に伝える内容でした。そして、校長自身の経験を通して、生徒に、「考えてほしいのは、人権や障がいとは人ごとではなく、自分ごととして捉えるということ。自分で考えて、どう行動していけばいいのか、自分なりに考えてほしい。」と伝えました。



歯と口の健康について ～10/6 学校保健委員会～

学校歯科医である草間俊樹先生をお迎えし、オンラインによる会でしたが、グループごとに「我が子の歯の健康にかけてきた思い」や「自身の歯の健康について」話し合いました。また、本校の生徒会保健委員会による「歯と口の健康週間」の取組の紹介や、定期健康診断等で見られる本校の健康状態について発表しました。最後は草間先生より、歯の健康を保つためにどうすればいいのか、お話をいただきました。



草間先生からは、「3才で味覚が形成されていく。そこで甘い物を取り過ぎないこと。」「食生活の乱れが歯に影響する。3食後のブラッシング、特に夕食後のブラッシングを大事にすること。」「兄弟差もある。下の子にも目をかけていきたい。」等のお話をいただきました。参会された保護者の方からは、「我が子が小さいときに仕上げ磨き等、頑張っていたことを思い出す機会をいただきました。今は自分のできるようにはなっているものの、一緒に歯磨きをして磨き方を確認し、糖分の取り過ぎや食事面などは、まだまだ親としてできることがあると思うので、一緒に守っていききたいと感じました。」等の感想をいただきました。

